

「多文化サービスを始めるために」

喜多由美子（八尾市立八尾図書館）

1.心のバリアって外れるんでしょうか？

- ・韓流ブームで思うこと
- ・子どもたちと楽しんできた絵本から
考えるより感じることから
いろんな知識を背負い込む前に
「ZOOM」
「みんなおなじでも みんなちがう」
「ゆうたはともだち」
- ・多文化サービスはきれいごとじゃない。共に生きるために必要なんだ。

2.多文化主義と多文化サービスとは：アメリカの歴史発展モデルを例に

- ・アメリカの歴史的発展過程から

同化・統合の諸概念（アメリカにおけるモデル）
a.アングロ・コンフォーミティ
$A + B + C = A$
アングロ文化同調主義，アメリカナイゼーション運動
b.「るつぼ」論
$A + B + C (+ X) = D$
溶け合わさって新しい「アメリカ人」となるという考え方
Zangwillの戯曲「るつぼ」：1908年初演
c.文化的多元主義，多文化主義
$A + B + C (+ X) = A + B + C$
「るつぼ」に対して，オーケストラ，モザイク，サラダ・ポウルなどの比喻

- ・アメリカへの移民人口の変化と多文化サービスの関係

アメリカの多文化社会図書館サービスの時代区分（S. Stern）
1890年代のサービスの開始から、20世紀初頭にかけての大量移民がアメリカに到来した時期を中心とする
Library Service to the Foreign Bornの時代
第二次大戦後の人種・民族間の軋轢への反省を背景とする
Library Promotion of Intercultural Understandingの時代

1960-70年代のアフリカ系アメリカ人を中心とする公民権運動の興隆に図書館が積極的に参与した

Library Service to the Disadvantaged の時代

1980年代から今日に至るエスニシティ問題への注目を背景にした

Library Service to the Ethnically Enfranchised の時代

Stern, Stephen “Ethnic Libraries and Librarianship in the United States: Models and Prospects,” *Advances in Librarianship*, vol. 15, 1991, pp. 77-102.

・図書館の多文化サービスとは

・対象者：移民，外国人労働者，先住民族等の民族的・言語的・文化的 マイノリティ（+マジョリティ）

・サービスの発展経緯

1960-70年代頃から，北アメリカおよび北西ヨーロッパ諸国，オーストラリアなどの国々を中心に発展

背景：(1) アメリカ合衆国におけるアフリカ系アメリカ人公民権運動の進展とそれに引き続く各マイノリティ住民の民族意識の高揚

(2) 北西ヨーロッパにおける外国人労働者の大規模な受け入れに代表される国際労働力移動の活発化，など

・用語

国際図書館連盟（IFLA）の分科会の名称は，Section on Library Services to Multicultural Populations

各国の事情と時期によって multicultural library services，multicultural librarianship などの多様な呼称が使用されている

・サービス内容

・資料の提供

1. マイノリティの母語による資料
2. その国の主要言語習得のための語学資料
3. 出身国の言語の学習に必要な資料
4. 異文化間の相互理解に必要な資料

・レファレンス，図書館間協力，整理技術，館内設備，職員体制

・多文化サービスの意義

- ・「在住外国人は納税者である」ということ
- ・「在住外国人は国民でなくとも住民である」という考え方

地方自治法 第十条 “市町村の区域内に住所を有する者は、当該市町村及びこれを包括する都道府県の住民とする”

第二項 “住民は法律の定めるところにより、その属する普通地方公共団体の役務の提供をひとしく受ける権利を有し、その負担を分任する義務を負う。”

- ・ 全ての住民の知る権利，情報へのアクセス権，読書権の保障のために
障害者サービスから得られる視点
 - ・ マイノリティの言語権，文化権保障のために
 - 「市民的及び政治的権利に関する国際規約(国際人権規約B規約:自由権規約)」
 第27条〔少数民族の権利〕
 “種族的，宗教的又は言語的少数民族が存在する国において，当該少数民族に
 属する者は，その集団の他の構成員とともに自己の文化を享有し，自己の宗教
 を信仰しかつ実践し又は自己の言語を使用する権利を否定されない”
 - cf. 「世界言語権宣言」
 言語権研究会編『ことばへの権利』三元社，1999

- ・ 共生の社会を築くために
 - 「児童の権利に関する条約(1989年)」第29条〔教育の目的〕の1
 “締約国は，児童の教育が次の目的に向けられることに同意する。
 [中略](c)児童の親，児童自身の文化的特性，言語及び価値，児童が在住して
 いる国及び児童の出身国の国民的価値並びに自己の文明と異なる文明に対す
 る尊重を発展させること”

- ・ ポイント(国際図書館連盟(IFLA)のガイドラインより)
 - ・ 「普通」のサービスであって，「特別の」サービスでない
 “重要な点は，民族的・言語的・文化的マイノリティへの図書館サービスが，「通常の」
 サービスとは別個のものとか，付け足しとみなされてはならないとことである。それは
 どんなサービスにも不可欠なものとみなされなくてはならない”
 - ・ 「要求」について
 “要求(demand)もまた大切である。要求は，様々な理由で，特定の民族的・言語的・
 文化的マイノリティ人口の割合に対応するとは限らない。したがって，いままでサービ
 スが提供されてこなかった場合には，要求を考えに入れることはできない。過去に提供
 が不十分であったり，サービスが貧弱で不適切であったり，あまり期待されていなかっ
 たり，広報がまずかったり，人々が図書館サービスについて知らなかったりすることの
 反映が，要求の低さにでているかもしれないのである。このような場合，サービスに関
 する決定をくだす前に，要求がなかったり要求のレベルが低かったりする理由を徹底的
 に調査すべきである”

3. 日本での発展経緯

1980年代半ば以前

- ・ 公立図書館においてはほとんど行われていなかった。
 すぐれた例外：東京都立中央図書館の朝鮮語資料、中国語資料
- ・ 1986年：国際図書館連盟(IFLA)東京大会での日本におけるこの種のサービスの不在の指摘

- ・1988年：大阪市立生野図書館に「韓国・朝鮮図書コーナー」開設
- ・1988年：厚木市立中央図書館に「国際資料コーナー」開設
- ・1991年：むすびめの会（図書館と在住外国人をむすぶ会）の発足
 - 1995年『多文化社会図書館サービスのための世界の新聞ガイド：アジア・アフリカ・中南米・環太平洋を知るには』むすびめの会編，日本図書館協会，1995.12..発行
- ・2002年 日本図書館協会多文化サービス研究委員会発足
 - 本年秋、『多文化サービス入門』（図書館活用シリーズ）日本図書館協会多文化サービス研究委員会編，日本図書館協会，2004.発行へ

さあ、帰りに1さつ
どうぞ！

4. 『多文化サービス入門』内容

今後へ向けてははじめに / この本を出すわけ / この本を読む方へ

第I部 本文編

第1章 図書館の多文化サービスとは

- 1 図書館の多文化サービスとは / 2 障害者サービスとの関わり / 3 多文化サービスのあゆみ / 4 日本でのはじめ / 5 調査から見る多文化サービス / 6 日本における在住外国人の概況

第2章 よくある質問に答えて

- 1 はじめの一步 / 2 心のバリアーをはずそう ~笑顔が一番・言葉は二番~ / 3 サービス計画の立て方 ~街に出よう~

第3章 はじめてみよう

- 1 カウンターで ~外国人利用者との接し方~ / 2 収集 ~すぐのできるものから~ / 3 整理 ~難しく考えないで~ / 4 排架 ~わかりやすく~ / 5 児童サービス ~こどもがやってきた!~ / 6 広報・掲示 ~もっと売り込もう~ / 7 集会・行事・日本語学習支援 ~理解を深めよう~ / 8 インターネット端末で ~地域と世界をむすぼう~ / 9 図書館間協力 ~あるところから借りよう~

第4章 これからにむけて

- 1 職員の採用について ~外国籍職員の採用を~ / 2 外国籍住民は大切なパートナー / 3 図書館学教育で多文化サービスを

第II部 実践編：多文化サービスのいま

- 1 大泉町立図書館のポルトガル語図書コーナー~群馬県大泉町の実践から~ / 2 在住中国人への図書館サービス~広島県福山市の実践~ / 3 アジアの資料を中心として~福岡市総合図書館の報告~ / 4 ブラジル人から見た日本の公共図書館の多文化サービス~ポルトガル語資料を中心に~ / 5 トロント公共図書館の多文化図書サービス~日本語資料選択者の立場から~

第III部 マニュアル編

- 1 「多文化に対応した図書館」チェックリスト / 2 市川市立図書館多文化サービス方針等 / 3 大阪市立図書館 外国語資料サービス検討結果 / 4 公立図書館の外国語コレクションデータ

/ 5 各言語での数、月、曜日 / 6 エスニック・メディア / 7 言語別書店リスト

付録 1 関連法規 / 付録 2 関連団体 / 付録 3 多文化サービス実践報告リスト (1994 ~) /
付録 4 参考文献とホームページ

5. 課題と展望

今後へ向けて.....共通するハードルと対処

多文化サービス 地域のニーズに応える、公共図書館としての基本的なサービスの
ひとつ

【共通する課題】

「職員の語学力」(喋れない・読めない)

収集の問題 (出版流通ルート of 把握・出版情報の把握)

書誌作成の問題 (作成と提供)

コンピュータでの多言語処理・多言語並列処理

【対応の姿勢】

Demand (顕在的要求) は見えないかもしれないが、「多文化の人々」がいれば、Needs (潜在的
要求) は確実にある。一定数以上のニーズがあるなら、サービスの提供は必要。

自ら壁を高くしない。できることから、できる形で始める。

サービス対象からニーズを学び、助力も得る。

【対応】

ことば.....最初から完璧を期すと何も始められない (会話・収書・目録など)

高度な「語学力」は当面必要ない 必要なのは資料提供・「場」の提供

- ・ 奉仕業務: カウンターでの定型会話・案内パンフで対応
- ・ 整理業務: カードや MARC よりも表紙コピーで・書誌事項もパターン認識で対応
可能 「辞書を引くだけの知識があれば何とか始められる」
「表紙コピー方式」も

日本語初学者にわかりやすい日本語を心がけることも必要

利用者の望むテキスト言語での資料提供は必要だが、カウンター応対まで必ずその言語
でなければいけないというわけでもない。

新聞・雑誌から始める

- ・ 出身国 (地域) のメディア (故郷の現在の情報の提供)
- ・ エスニック・メディア (故郷の現在の情報の提供 + 日本での生活情報の提供)

図書では、要求の多いもの

..... 日本語学習 / 出産・育児・医療・料理 / 小説 / 地域の生活情報

目録, コンピュータ

- ・ 日本語、ローマ字とそれ以外の言語を 1 つのシステムで混在させることの難しさ
まだ現在全国標準的なものはない。しかし, コンピュータに入らないから提供できない
本末転倒

書店とのよい関係を作る・ネイティブの協力を得る

- ・ 図書の選書と収集に書店・ネイティブとの協力関係は欠かせない。
お互いにお互いを育てあう関係が必要。

エスニック・コミュニティとの連携が重要

地域の実情を知り、サービス対象を知ることから始める

集会・行事も必要

- ・ 多文化サービスでは、基本的な資料提供を産み出し活性化するために
集会・行事（ライブライ・ツアー等）も重要。

出身国で図書館サービスを受けてこなかった人々への働きかけ。

外国人職員採用が必要

- ・ 外国籍職員の採用は、多文化サービスの大きな柱

図書館間協力が必要

- ・ 県立図書館の役割（蔵書バックアップ・サービス実施の助言）

6. おわりに

【資料】視覚障害者の読書環境整備を（視覚障害者読書権保障協議会 1971年）

II. 視覚障害者の読書環境整備に関する我々の考え

現代情報化社会では文字を中心とした情報に接することが、人間の文化生活を維持発展させるために不可欠な条件である。それ故に、このことは基本的人権（生存権）の一部である。しかし視覚障害者は、その身体的条件のゆえにこの文化生活を維持発展させるための不可欠な条件を有し得ない状態におかれている。この身体的条件をカバーする作業（点字や音に変える）が十分になされなければ、視覚障害者の文化生活は保障されない。ところがこれは、現状ではIで述べたように極めて貧弱である。国及び地方公共団体が国民の人権を保障する義務があるとするならば視覚障害者の読書する権利も当然保障していかなければならない。憲法は25条で文化的生活を営む権利を、23条では学問の自由を保障している。さらに具体的には、図書館法でその2条に「図書館は図書資料を一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」であることを規定している。以上のことからすると、視覚障害者も一般公衆として図書館を利用する権利を有する。

より深く学ぶために

- ・ 深井耀子『多文化社会の図書館サービス：カナダ・北欧の経験』青木書店、1992.
- ・ 日本図書館協会障害者サービス委員会『多文化サービス実態調査 1998 < 公立図書館編 > 報告書』日本図書館協会、1999.3.
この概要をまとめた簡略版は
村岡和彦「10年を映す『多文化サービス実態調査 1998』：取り組みの増加と変わらぬ課題」
『図書館雑誌』Vol.93, No.4, 1999.4, p.290-291.

- ・ JLA 図書館調査事業委員会事務局「多文化サービスについて：2002 年図書館調査ミニ付帯調査結果報告」『図書館雑誌』 Vol. 97, No.2, 2003.2, p.106-107.
- ・ 国際図書館連盟多文化社会図書館サービス分科会編『 I F L A 多文化社会図書館サービス』
(深井耀子・田口瑛子編訳) 多文化サービス・ネットワーク発行 , 日本図書館協会発売 , 2002
むすびめの会のホームページ
<http://www.musubime.net/>
メール連絡先 : staff@musubime.net